



414  
A 802  
2



秘

秋派第一號ノ七

マニラ市戦況記事

自六月二十六日午後七時頃ヨリマニラ市ノ南端マラテ  
ノ方向ニ當リ銃聲頻リニ聞ヘ時々附近ノ砲臺  
ヨリ應砲ヲ発シマニラ沖ニ碇泊セル艦内ヨリ明ラ  
カニ砲銃ノ閃火ヲ認ム連發激戦ノ銃聲ハ長  
時ニ亘ルテナシト虽モ常ニ少許ノ間断アリテ又発  
火ヲ始メ終夜最モ執拗ニ戦鬪ヲ継続セシ者ノ  
如シ  
二十七日拂曉ニ接シ又北方面ニ於テ凡一時間猛烈  
ノ銃聲ヲ聞ク  
今日午前八時戦況視察ノ爲メパシグ河口揚陸場



ニ上陸ス左河口ノ防禦ハ従前ヨリヤシクシテ一列ニ繫  
留シタル已耳ナリシモ今回ハ其内方ニ三艘ノ風帆船  
ヲ沈メ重線ニ防禦ヲ増加セリ聞ク此事業ハ中  
立國軍艦ニ附屬セシメシ船舶ヲ出河セシメシ  
後直々ニ着キセシ者ナリト云フマニラ城胸壁上  
ニ八處々土俵ヲ積ミシテ銃火ニ対シ砲台ノ防禦  
ヲ修補セリ軍艦ブルサシ及セブハ以前ノ懸留地  
位ヲ交換シマニラ城側ニ接シテ懸留セリ若シ  
賊近ク襲来リ力及ハサルハ城中ニ遁走スルノ便  
ヲ得ル爲メカ而シテ全艦甲板上及艦橋ニモ亦土  
俵ヲ積ミ揚ケ上甲板砲台ノ防禦トナセリ  
スヘイン橋ヨリ公園附近ノ樹木ハ多ク枝葉ヲ伐  
リ拂ヒ猶多敷ノ人足ヲ以テ続々伐木ニ従事セル

ヲ見ル砲台修築ノ材料トシテ着キセシモノナルヤ  
知ルヲ得スト虽モ恐クハ西人敗後城内ニ退守スルハ  
城中保固ヨリ棄放スル射界ヲ横開セシムル爲  
メナルヘシ  
市街ノ景況従前ニ比スレハ人心頗ル競々トシテ道  
路行人ノ舉動モ駭々ナリ漸ク市街ノ中心ヲ遠カ  
ルニ隨ヒ民家々々閉鎖セルヲ見ル殊ニ土人ノ家々  
午前九時マニラニ達ス街道民家ノ縁端ニ哨兵  
リテ戦闘區域ナルヲ示ス即チ未意ヲ告ケ將校  
面會ノ上戦闘線ヲ視察セシメテ要求セシコ  
應答曖昧ニシテ頗ル困難セシニ幸ヒ下士官ノ未  
ルアリテ承諾ノ上本部ニ至ルヲ得タリ本部將  
校中カビテ敗殘ノ海軍士官數名アリ大ニ同情

ノ便宜ヲ得直ニ前方ニ修築セル及設砲台ニ至  
ルヲ得タリ本部ヨリ及設砲台ニ至ル約二百米  
突合砲台門側ニ於テ西人砲兵中尉某氏ニ會  
フ多分當直將校ナルヘシ乃チ本部ノ允許ヲ得  
テ来リタルヲ告ケテ導カレテ砲台門ニ入ラセシ  
キ番兵ノ拒絶スル所トナル該中尉吾人ノ他意ナキ  
モノナルヲ告ケテ之ヲ慰諭セシモ中々聞入レズテ長  
官允許ノ証件ナケレハ入門セシムルヲ得スト主張セ  
シモ遂ニ該中尉ノ周旋ニヨリ入門スルヲ得タリ左  
砲台ハ旧ト火藥庫ナリシモノヲ修築シテ及設  
砲台トナセシモノニシテ敵方ニ面セル胸壁上ニ五門  
ノ野砲ヲ備ヘ土俵ヲ積ミテ砲門ヲ開キ以テ防  
禦トナセリ使用砲ハ長八珊一門短八珊四門ナリ

トス砲員中ニカビテ數余ノ水兵ノ混スルヲ見ル準  
備總テ不完全ニシテ殊ニ合砲台ハ海面ニ對シ  
更ニ隠蔽セラレザレハ軍艦ノ砲撃ニ會セハ一撃  
ノ下ニ破壊セラルヘシ守兵ノ居住最モ不潔及設  
上止ムヲ得サルヘキモ一般ニ紀律ノ嚴肅ナル知ナシ  
砲台ノ直前ニ横キリテ渠水アリ河幅約五十米  
突サレダナ附近ニ至ル深サ幾ヨリ知ラスト雖  
防禦上ニハ最モ要地矣ナルヘシ砲台ノ前方約  
四百米突ヲ隔テ一連土堤ヲ築造スルヲ見ル  
高サ約一米突半竣功ノ上ハ散兵線ノ掘守スル  
処ナルヘシ當時戰鬥線ハ猶前方二三百米突ニ  
散布セリ此方面ニ當ル敵兵ノ勢力ハ明ラカニ  
探知スルヲ得スト去フ賊兵ハ砲基ノ前方千四

百米突許リノ処ニアリテ常ニ叢林ノ内ニ潜伏  
シ時ヲ撰ハス龍襲撃スルモノニシテ練ニ守兵ノ文  
更時ニ棄シ激龍襲スルト云フ前夜未海上ヨリ認  
ムル発火ハ乃々此方面ノ戦争ニシテ本部方面  
ニ比シ最モ激烈ナリト云フ本月五日始メテ爰ニ  
守備トシテ派遣セラレシ午二百人ノ勢力ヲ有シ  
左方ニ四百人ヲ分派シテ據守セリト云フ五日以  
來本日ニ至ル戦死者五人負傷者十五人  
砲台員ノ文更スルハ二十四時間毎ニシテ該中尉  
ノ如キハ前夜激龍襲ヲ蒙リ安眠ノ寸隙ナク非  
常ニ疲労セリト云ヘリ  
此砲台ノ右側ニ依テ海岸ニ接シテ副砲台ヲ建  
築ス二門ノ野砲ヲ備フ短八珊砲ヲ用フ之レハ

前方千二百米突許リヲ隔テタル海岸展開  
地ヨリ現ハル敵兵ヲ砲撃スルニ供フルト云フ該  
中尉ハ乃々此副砲台ニ門ノ野砲ヲ指揮ス  
云フ主副砲台交通ヲナスニ敵彈ヲ避クル爲メ  
墜道ヲ開通シ居レリ砲台ヲ辞セリトスル際ド  
ンジャシテライストリヤ艦長ニ會ス全艦長モ此方面ノ  
守備ニ任スル人ナルガ如シ本部ニ致来シ辞ヲ通シ  
テ將ニ敵路ニ就カシトスル瞬時賊兵頓カニ襲撃  
ヲ始メ西軍應戰銃声實ニ猛烈ヲ極ム時々流  
彈ノ附近ニ落下スルモノアリ此時午前十時頃ナ  
リ乃々去ツテ「サレタナシ」ニ向フ  
サレタナシ方面ヲ守ル西軍ノ本部ハ寺院ヲ以テ之  
ニ克ツ兵數ヲ秘シテ明示セスト虽も分千二百人

ナラシト云フ人アリ西將校大ニ吾等ヲ好遇シ樓  
上ニ導キテ戦闘面ヲ望見セシム高閣四方ヲ  
展望シテ西軍砲台ノ砲撃ヲ見ルヲ得賊ノ砲  
台ハ北本部ヨリ東方千二百米突許ヲ隔テタ  
ル地ニ建造シ野砲三門ヲ備フルト云フ時々人  
影ノ現出スルヲ見ル北方面ニアル賊ハサンペドロマ  
カテヲ台領シテ反將ピーターピラノ率フル者ナリ  
ト云フ爰ニ反將ピーターピラハ親友某氏アリ矢張  
土人ニシテ義勇兵ヲ招募シ隊長トナリテ此  
部隊ニ属セリト云フ敵臺ト應戦セル砲台ハサ  
シメサ方面ノ反設砲台トナリト云フ  
マニラ全市ノ周圍ニ派遣セル軍隊ハ總數六千人  
ナリト云フ

マニラ市ヨリ田舎ニ通スル道路ハ只タサシゲメサ  
ヨリマリキナニ通スル路道ノ外ハ悉ク通行ヲ謝絶  
セリト云フ本日本街道ニ於テ土人ノ田舎ニ逃避スル  
モノニシテ西兵ヨリ荷物ノ臭換ヲ受クル者多ク  
ヲ見ル聞ク北街道モ二三日中ニハ通行ヲ拒絶スト  
「マラテ」ヨリ迂回シテサシゲメサニ至リシ途中処々木  
舎ヲ建築シ掩堡ヲ起ス等工事頗ル頻繁  
ナルヲ見ル地圖ノ正確ナルモノナキヲ以テ何レノ地方  
ナルヲ明ラカニスル能ハスト虽モ地勢上之ヲ想像ス  
ルニマラテ方面ヨリノ連絡ヲ強堅ナラシムル目的ナ  
ルカ如シ

戦況視察報告

七月二日正午「マニラ」砲臺ヲ視察ス全砲臺ニ

付去ル二十七日石川大尉視察セシ以来変化ヲ来  
 セシモノ而已ヲ記載シ重々三頁ノモハ記載セズ  
 一 本館ヨリ砲臺ニ到ル道路ハ前回報告ノ當  
 時戦闘線上ノ如キ假造胸壁ヲキテ以テ敵  
 軍ヨリ射撃ヲ蒙リ又夕戦闘中敵ノ流彈  
 多數ニ飛ヒ来ルヲ以テ砲臺ヨリ本部ニ至ル  
 道路ハ深サ三尺余ノ地ヲ掘リ其土ヲ以テ胸  
 壁ヲ造リ往來スルニ此道ヲ使用スル如クセ  
 ントシ當時三分ノ一迄エセリ  
 一 砲臺ノ野砲ノ具數定ラズ視察ノ當時ハ四  
 門ナリ  
 此砲臺ヨリ「バ」附近迄ノ方面ハ一防禦区域  
 として野砲十二門ヲ有シ之ヲ敵ノ現ハル方面

一 二從ヒ其方ニ移動スト云フ  
 守備中隊長ノ語ス知ニ從ハバ此方面未ダ激  
 戦アラズ  
 開戦以來去ル二十七日迄ノ負傷者八十七名死  
 者七名ナリト云フ  
 一 又今人ヨリ聞ク知ニ隨ハバ外國軍艦士官ハ未  
 カ未觀セズ視察ノ時独艦士官二人ヲ見ル此  
 等ノ士官ハ友人タリ砲臺守備西國士官ヲ訪  
 ネ来リシモノナリト云ヘリ又夕英國士官ハ我等  
 彼國人ニ付キ疑ヲ懷クヲ以テ視察ニ来ルモ砲  
 臺上觀望ハ許可セスト云ヘリ  
 一 視察中砲臺ヨリ野砲ニ發射ス其目  
 的ハ三千米突許ノ海岸ニ十余名ノ土人上陸

セルヲ射撃せしト云フ

察スルニ野砲ハ常ニ十余名ノ土人ノ集ムヲ突  
見セハ射撃スルモノ、如シ

今日午前十一時「サレタ」方面ヲ視察スル前報告  
ト別異ノ兵ハ下ノ如シ

一 今方面ノ西軍ハ西兵定備軍五百名西國義  
勇兵及ヒ土兵五百名合計千名ナリト云ヘリ

一 北方面ノ前方ハ川流ヲ以テ圍繞スルヲ以テ防  
御スル易シト云ヘリ

一 野砲二門アリテ本部「サレタ」寺院ニ置キ  
敵襲ノ方向ニ移動シテ突射スト云フ

一 「マニラ」市ヨリ「サレタ」ニ到ル道路中「ブロック」  
ハウズヨリ「サレタ」ニ到ル道路ハ西側共

水田ナリ其敵方ニ面スル側方ハ哨兵ヲ配シ處  
々ニ胸壁ヲ築ケリ

一 北方面ノ負傷者ハ開戦以來二十名ナリト云ヘリ  
目下「マニラ」市ヨリ市外地方ニ到ル道路ハ目

下其途中ニ在ル野水池アル「サレタ」ニ到ル  
戦事中ニ付北道路モ自然通行スルヲ能ハス

一 土人ハ田畦ヲ潜行シテ未だ往スト云フ  
「マニラ」市街内ニ別異ナシ唯商家ノ閉店スル益

一 尋キヲ見ルノミ

右報告候也

明治三十二年七月三日

海軍中尉 山下義章  
海軍大尉 下村延太郎

海軍大尉武部岸郎

秋津洲艦長海軍大佐齋藤實殿

戦況視察報告 (六月二十九日)

一般ノ防禦ハマニラシ市ヲ離ルニ千五百米突ノ周囲ニ  
一キロメートル毎ニ木舎ヲ作り發砲ニ便ナラシム其番  
号ハ北方ナル「トニド」ノ沿岸ニ初リ南方ナル「マラテ」  
ノ沿岸ニ達シ第五号ヲ以テ終ル此ノ番号ノ  
以外ニ増建セルモノアリ  
北方ハ依地ニシテ泥地多ク鐵道線路ハ「トニド」ノ  
道路ニ添ヒ輕便鐵道線路ハ道路ノ右側ニ布  
設セラレ兩鐵道共當時ハ不通ニシテ輕便鐵道  
ハ短巨高間西兵ノ往復ニ運轉シ居リリ當方面  
ノ守備ハ兵員二百五十名ニシテ「カナリ」ニシテ

線スル運河アリテ之レヨリ一千米突許リヲ隔リ  
テ一小橋アリ「マイパホ」村ニ境ス此ノ小橋ヲ渡リテ  
忽チニ木舎アリ西兵此ニ守備ス也ヨリ四百米突  
ヲ隔リテ輕便鐵道守備ニ居リト云ヘリ現ニ當時發  
砲ノ音ヲ聞ケリ尙守備地ニハ大砲九冊位ノモノニ  
門ニシテ「フエル」ナルカドホシ大砲也ヲ指揮シ居リト  
而シテ初期ヨリ死者十名傷者二名アルノ事此ノ  
「マイパホ」ノ西方ニシテ海岸トノ間ニ一砲台アリ砲  
兵也ヲ擔任シ砲二門ヲ備ヘリト云ヘリ  
右ハ西人大尉某ノ話ス所ナリ

「パシポンド」ハ第二木舎ノアル処ニシテ「マイパホ」ノ隣  
地ナリ



共同墓地支那人共同病院アリテ病院ハ吉方面ノ司令部トナリカゴシ大佐北ニ有リ墓地内ノ大寺院ハ北司令部ヲ巨ルソ一千米突ニ在リテ戦闘線ノ哨兵起臥シ居リト云フ此寺院ノ右方凡ソ一突ニ当リ掩堡ノ如キモノアリ初期ヨリ死傷ナシト云ヘリ砲台二三アリ各砲二門宛ヲ備ヘリト吉司令部ノ大佐ハ我等ノ戦闘線ヲ視ルヲ好シトセザルヲ以テ視ルヲ得サリシ司令部ト沼地ヲ隔テ第二木舎アリ

「ガシフアンデルモンテ」守備地

「ガシフアンデルモンテ」ハ市ハ東方ニ在リ水道ノ貯水場アリ且ツ高地ニシテ展望ニ便ナルヲ以テ殊ニ守備ヲ嚴シシ假設砲台木舎等ノ増築アリ南守

備地ノ大砲ハ八冊砲四門四冊半砲三門ニシテ守兵ハ百五十名ナリト云ヘリ貯水場ハ吉方面ノ司令部ニテ大佐某指揮官ヲリ是ヲ巨ル東南五百米突位ニ大家アリテ西兵ノ戦闘線哨兵ノ舎堂ナリト云ヘリ又徒ハ北シヨリ四百米突位ヲ隔テ對陣シ居リト云ヘリ当司令部ノ如キハ屢々銃彈到シリトテ大佐某ハ三種ノ彈丸及彈痕ヲ示セリ大佐ノ察スル所ニテハ百五十挺ノ銃ヲ携ヘ居ルナラシト云ヘリ又北方面ノ五徒ハ三門ノ野砲ヲ有セリト云フ司令部ヲ巨リ市ニ到ル道路ノ左側ニ火薬庫アリテ四月下旬火薬ヲ城内ニ移セリト云フ又々地司令部ノ南西ノ高地ニ假設砲台ヲ今尚建設

九

し居しり

又々此街道ハ本日より人民ノ交通ヲ禁シタリト云  
へり

右報告候也

明治三十一年六月二十日

海軍少尉磯貝正吉  
海軍中尉山下義章  
海軍大尉武部岸郎